

構成団体における食育の取組概要

今年度の食育に関する取組と来年度の取組予定についてについて、ご報告いただいた内容を記載しています。

<若い世代への食育>

県民の目指す姿

- 子どもの親や、20歳～30歳代の若い次世代が、食育に関心を持ちます。
- 家族や友人、地域などで様々な人達と一緒に食事をする機会を持ちます。
- 幼児期から、毎日朝食を食べることを始めとして、基本的な生活習慣を身に付けます。
- 小中学生や高校生及び20歳～30歳代の若い世代が自分に必要な食事を選択できるような知識を持ちます。
- 子ども達がバランスのとれた食事を準備できるスキルを身に付けます。
- 高校生が食生活を自己管理できる力を身に付けます。

【長野県歯科医師会】

<今年度の取組状況>

- 食育の推進を図るためには、学校での歯・口の健康づくりを通して、子供一人一人のQOLを向上し、確かな健康観を確立するとともに生涯を通じて健康を保持増進し、健康な生活が実践できる資質や能力の基礎を培うことが重要である。
- 『こども8020推進員育成事業』を実施し、従来から進められてきたむし歯や歯周疾患の予防のみならず、食育の推進を支え、生活習慣病の予防などにもつながる視点で健康教育を行った。

<来年度の取組予定>

- 同上

【長野県栄養士会】

<今年度の取組状況>

- 「食からパワーアップ！高校生のための食育出前講座」の開催
食についての指導が欠けがちな高校生を対象に県内19校・349人(令和5年12月末現在)で、健康づくり、食事の重要性、健康に配慮し食べ方のポイントなどについての講話を実施した。
今年度は、県からの委託を受け実施しているため、県から高校への呼びかけもあったため昨年度よりも9校多く実施できている。

<来年度の取組予定>

- 来年度も県と連携し、多くの高校で講座を開催したい。

【長野県調理師会】

<今年度の取組状況>

- 減塩はまず会員の家庭から、お客様への提供料理、薄味で素材の持ち味を生かした味付けをする。基本的な考え方を推進

<来年度の取組予定>

- 基本的には減塩を心がけ、素材の持ち味を生かす。
会員の賄については、減塩と同時に週1回胃を休める食事を心がける
(お粥食を取り入れる)

【全日本司厨士会長長野県本部】

<今年度の取組状況>

○のこさない食事を考えながら実践。

<来年度の取組予定>

○料理教室など子どもから大人まで料理を作るところから学び、食事の大切さ、楽しさを伝える事業を計画している。

【長野県小学校長会】

<今年度の取組状況>

○給食のきまりやマナーを守り、楽しい食事環境の工夫について考えた。

○丈夫な体をつくるために、バランスのとれた食生活の大切さについて考えた(三色の食べ物、6つの食品群)。

○夏バテや風邪にならないために、暑さ・寒さに負けない食事をする事の大切さについて考えた。

<来年度の取組予定>

○給食のきまりやマナーを守り、楽しい食事環境の工夫について考える。

○丈夫な体をつくるために、バランスのとれた食生活の大切さについて考える(三色の食べ物、6つの食品群)。

○夏バテや風邪にならないために、暑さ・寒さに負けない食事をする事の大切さについて考える。

○朝食の大切さについて考える。

【長野県中学校長会】

<今年度の取組状況>

○家庭科の授業でICTを活用し、バランスの取れた1日の献立作成を行った。

○給食のないお弁当の日に、できるだけ自分でお弁当をつくる「お弁当チャレンジ」の日を位置づけ、自分のレベルに合わせて生徒が弁当づくりに取り組んだ。(1学年)

○食に関する指導として、「中学生の食生活」について講師による講演会を行い、食事で心がけたいことや、野菜の飾り切り実演などの体験をした。

○食に関する興味関心が持てるよう、生徒会給食委員会で「給食クイズ」の企画を実施した。また、各学期に1回程度給食週間を行い、目標をもって取り組んでいる。

○学校保健委員会や保健だよりの発行等で、家庭との連携を大事にしている。

○不登校傾向生徒や、朝から気力がなくて保健室に来室する生徒に、養護教諭が生活習慣確立のために自己を振り返り、朝食の大切さなどの保健指導を個別に行っている。

<来年度の取組予定>

○基本的には、今年度の取組を継続して行う予定。

○家庭科の授業でICTを活用し、バランスの取れた1日の献立作成を行う予定。

○「お弁当チャレンジ」の日を継続して取り組む(3年間継続のうちの2年目)予定。

【長野県高等学校長会】

<今年度の取組状況>

○主な取り組み

・食物栄養科(食物調理を専門とする学科)の教育内容としての学び「家庭総合」「栄養Ⅰ・Ⅱ」(年代別)「調理」「子どもの発達と保育」の中から学ぶ。「課題研究」の成果発表で研究成果を共有する。

・各種料理コンクールへの応募

・全国高等学校家庭科食物調理検定の合格

・みんなの塩田食堂(子ども食堂)調理ボランティア(3年有志参加)

<来年度の取組予定>

○高校生が自ら食生活を管理できる知識と技能を身に付けられるよう、今年度の取り組みを継続する

【長野県保育連盟】

＜今年度の取組状況＞

○年 1 回、栄養士の保育園栄養指導訪問があり、子どもたちへ主食・副菜についての話がある。また、ランチオンマット制作で何が主食で何が副菜か、それを並べる位置などの実技もする。
○来年度入園希望の 1, 2 歳児の保護者に向け保育園の給食を紹介し、作り方なども話して、子どもの食生活に興味を持って、食事作りに取り組んでもらう機会を設けた。

＜来年度の取組予定＞

○令和 6 年度も引きつづき行っていく計画である。
○登園前の時間にゆとりを持ち、朝に食べ物をお腹に入れてきてほしいと話している。午前中の活動に違いがあることを伝え、理解し協力してもらう。

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】

＜今年度の取組状況＞

○令和 5 年度は NPO 法人子どもとメディア代表・清川輝基先生、日本小児科医会理事・内海裕美先生を講師に「食卓は心も育つ場所」をテーマの一部に入れて頂きお話を聞く

＜来年度の取組予定＞

○来年度は、講師のお話に基づいて、保護者の皆さん共に食事は頭や体の活性化につながるエネルギーになるだけでなく、心の栄養につながることを学びあい、「食事の時はテレビを消す」を生活習慣にするよう啓発する。「共食」みんなが忙しい現代社会、たとえ毎日でなくても家族が食事を囲んで楽しく団らんする一時を作る工夫をすることの大切さを考える。

【栄養教諭・学校栄養職員部会】

＜今年度の取組状況＞

◆当部会での取組

1 長野県の児童生徒の食に関する課題への取組

令和4年度に実施した児童生徒の食に関する実態調査を比較するためのソフトを作成した。会員が県、市町村、学校を比較検討した。また、各学校の課題を明らかにし、家庭や地域、行政等関係機関へ調査結果を周知するとともに課題の共有を図った。また、成長期における朝食摂取の重要性等について周知するために、保護者向けリーフレットを作成し、試食会や講演会等で活用した。

2 教科等と関連した給食レシピ集の作成

食に関連する教科と関連付けた献立を提供するために、レシピ集を作成した。また、給食の時間に活用できる一口メモ(おたより)を作成した。

◆会員の取組

1 教科等の時間における食に関する指導

食に関連する教科(体育科(保健体育科)、家庭科(技術・家庭科)、特別活動、道徳科等)において、栄養教諭と学級担任及び教科担任が連携して食育の授業を実施した。

2 給食の時間における食に関する指導

・地場産物、郷土食、行事食等を献立に取入れるとともに、教科で学んだ食に関する内容を給食に関連付け、指導を行った。

・食事のマナー等の指導を行った。

3 個別的な相談指導

・食物アレルギー対応の体制づくりと給食管理。
・偏食・肥満・痩身・スポーツ栄養等の健康課題への取組。

4 家庭や地域との連携

・朝食摂取や共食の重要性、望ましい食習慣等の成長期における食の課題について、学校保健委員会、講演会、試食会、授業参観、給食センター見学等を通して、保護者に周知し課題解決に向けて連携した。

- ・食育だよりや保健だより、掲示物、ホームページなど様々な媒体を活用して、望ましい食習慣について家庭や地域へ情報発信を行った。
- ・児童生徒が自ら調理ができ、食への関心を高めるために、親子料理教室等の開催や、調理動画、QRコード等、SNS を利用し配信した。

5「お弁当の日」の実施

- ・家庭科(技術・家庭科)の授業でバランスのよい食事について学んだ知識と調理技能を生かして、児童生徒が自ら作る「お弁当の日」を設けた。(食事を準備できるスキル)

< 来年度の取組予定 >

- 児童生徒の食に関する課題解決のために、重点項目に沿った取組みを部会で検討し、推進していく。
- 学校全体で食育を実施するために、「食に関する指導の全体計画」に沿って食に関する指導を実施する。

【長野県PTA連合会】

< 今年度の取組状況 >

- 発行している「長野県 PTA 新聞」にて「みんなの好きな給食メニュー」を紹介したり、令和3, 4年度の「学校給食に長野県産物を活用した献立コンクール」で入賞した献立よりいくつか紹介したりと食についての情報を発信し、食に関心を持っていただくよう企画した。(当日新聞持参)

< 来年度の取組予定 >

- 未定

【長野県学校給食会】

< 今年度の取組状況 >

- 学校給食に長野県産物を活用した献立コンクール、学校給食に長野県産物を活用した調理講習会、長野県産物を活用した加工食品の活用促進、長野県産物を活用した学校給食献立レシピ集の刊行などの「学校給食における長野県産物活用促進事業」を長野県学校保健会栄養教諭・学校栄養職員部会との協力により実施。

- 全国学校給食週間に合わせ県教育委員会が開催する学校給食フェアを後援し、食育教材の貸し出し、サンプル品の提供等協力した。

< 来年度の取組予定 >

- 引き続き継続した取組を予定している。

【長野県生活協同組合連合会】

< 今年度の取組状況 >

- ②、③、④の課題にもかかわるのですが、長野県「ACE プロジェクト」に連携する取り組みとして、県内の協同組合(長野県協同組合連絡会)がともに「信州まるごと健康チャレンジ2023」に取り組みました。今年は、家族でいっしょに取り組めることを周知し進めました。チラシ及び各団体の広報紙により 65 万世帯への配布を行いました。チャレンジの課題は①減塩、②早寝早起き、③禁煙、④適量の飲酒、⑤運動習慣、⑥バランスの良い食事、⑦あいうべ体操、⑧だれかとおしゃべり、⑨じぶんで決めるチャレンジの9つで、決めたコースに60日間取り組む内容です。報告をよせてくれたのは約 2500 人(1 月現在)でした。

< 来年度の取組予定 >

- 信州まるごと健康チャレンジを継続します。

【長野県農業会議】

< 今年度の取組状況 >

- 農業委員会組織では、地産地消をはじめとしたエシカル消費の推進、農業の担う人材育成や次代を担う世代への食の継承等を図っていく観点からも、消費者や子ども達に向けた食育活動の推進は大変重要な課題と

位置付けている。このため、消費者の食に対する理解促進、子供達に農業に関心を持ってもらう農業体験活動等の支援に取り組んでいる。

【農業委員会の活動事例】(全国農業新聞 信州版・北信越版・中日本版他に掲載)

①上田市

上田市農業委員会は、耕作放棄地解消活動の一環として、市内、園児・小中学校生徒を対象に、「こども米作り体験会」と「こども野菜体験会」を開催している。農業委員・農地利用最適化推進委員等が田植え・稲刈り・はぜ掛け・脱穀、大根の種まき・収穫体験などを指導を行うとともに、子供達、親子との交流活動を実施している。本取組は、全国農業新聞信州版・北信越版・中日本版へ、継続し掲載し情報発信を行っている。

また、本取組は、県・県教育委員会が共催する、「信州 SDGs アワード2023」の企業・団体等の部に入賞した。これは、こども農業体験会の他、市内各4つの小学校・保育園に委員が野菜作り指導を継続し行ってきたことと、これらの活動が農業委員会関係以外の、市内農地所有適格法人・市地産地消協議会・食生活改善推進協議会上田支部・市農業支援センター・SBC 信越放送など、様々な団体等の協力を得ながら進め、他分野への波及効果が評価されたことによるものである。

②大鹿村

大鹿村農業委員会は、同村の保育所と連携して、子ども達を対象とした食育活動を実施している。遊休農地を活用して、サツマイモ・大豆・サトイモなどを栽培し、苗の植え付け等の農業体験指導の他、収穫物は、焼き芋体験会、みそ作り・学校給食へ提供し、地産地消を進めている。

また、2年前にはウクライナ支援のため、国花のヒマワリを作付けし、村民行事で採取体験などのイベントに活用した。

<来年度の取組予定>

○県内複数農業委員会において、子供たちを対象にした農業体験会を予定しており、その取組は全国農業新聞・ながの農業会議だより等の広報紙に掲載し、広く県民に紹介する予定。

【長野県農業協同組合中央会】

<今年度の取組状況>

【令和4年度の取組（県内各JAでの取り組み）】

うち保育園・小中学校・高校との連携

		うち (3JA)	うち (6JA)	うち (0JA)
①小学校等への「バケツ稲セット」の配布	(6JA)	うち (3JA)	うち (6JA)	うち (0JA)
②農業体験学習会(あぐりスクールを含む)の実施	(11JA)	(7JA)	(11JA)	(2JA)
③農業理解のための自JA作成教材の提供	(2JA)	(1JA)	(2JA)	(0JA)
④親子料理教室の開催	(8JA)	(5JA)	(6JA)	(0JA)
⑤出前授業の実施	(7JA)	(3JA)	(7JA)	(2JA)
⑥食農教育に関するセミナー・シンポジウム等の開催	(1JA)	(0JA)	(0JA)	(0JA)

食農教育セミナー：大人向けに開催

<来年度の取組予定>

○上記①～⑥取組予定

【長野県農村文化協会】

<今年度の取組状況>

○子どもたちへ「食農出前授業」を継続している。「つ」のつく年(9才)までに味覚(味蕾)が決まる。対象を小学校3年生において信州の風土を活かした和食(一汁三菜)の学習を進めてきた。モデルとして信州新町小学校は毎年3年生に「箱膳を活用した食育推進事業」を行ない、今年度で9年目となった。「藁つと納豆」づくりにも挑戦し西山大豆の素晴らしさを伝えた。感想文から「瑞穂の国、お米・水田の大切さが

伝わっていると確信している。参加した親や先生が一番感動し、子どもたちに信州の食と農の素晴らしさを伝えていく波及効果がある。

○長野市の新規事業「子どもの体験・学び応援事業(みらいハッ！ケンプロジェクト)」に協力して食育体験を提供している(お辞儀の仕方から歳神様、お年魂の意味、やしょうま、すいとん、ぼたもちづくりなど)。膨大な情報社会の中で「食」においても何が大事か、選択する力をつけることに留意して取り組んでいる。

<来年度の取組予定>

○幼保小中高大学校、公民館講座など「信州ひらがな料理普及隊」の出前授業は継続して実施します。
○今年度、家庭科の先生を交え「家庭科授業案の作り方」を学んでいます。来年度は学校と地域の連携手法を更に深めていきたい。「伝承—伝える」からには相手に「伝わらない」と伝わっていないと同じこと。気持ちを引き締めて子どもたちと向き合いたい。

【長野県食生活改善推進協議会】

<今年度の取組状況>

○親子の食育教室

保育園、幼稚園の年長や小学生の親子を対象に食の大切さや作る喜び、楽しさを伝えるとともに味覚の勉強も実施している。

○中学生・高校生への講習会

各学校に出向き、家庭科の授業やクラブ活動などで外部講師として実施。自分の成長期に必要な栄養素とそれに対応してバランスの良い食事を一緒に作り食べている。また、朝食の大切さ、一緒に食べることで共食の大切さも伝えている。

<来年度の取組予定>

○今年度同様の取組を実施予定

【長野県農村生活マイスター協会】

<今年度の取組状況>

食の循環と地域の食を意識した食育と同

<来年度の取組予定>

食の循環と地域の食を意識した食育と同

【長野県市長会(安曇野市)】

<今年度の取組状況>

○妊娠届出時にパンフレット配布等による啓発

○乳幼児健診、教室等での栄養相談

○小中学生を対象にした生活習慣病予防のための保健指導

○認定こども園、幼稚園、小中学校における食育年間計画の推進

○二十歳の集いでパンフレット等による啓発

<来年度の取組予定>

○同様の取組

【長野県町村会(佐久穂町)】

<今年度の取組状況>

○妊婦教室

妊婦を対象に2日間の食事調査表を記載し、それをもとに個別に栄養バランスのとれた食生活の実践のための栄養相談を実施。

○離乳食教室

Baby Cooking①(前期離乳食教室)5か月前乳児の保護者を対象。離乳食の開始や進め方について講話と簡単な調理体験、試食を実施。

Baby Cooking②(後期離乳食教室)7～10ヶ月の乳児と保護者を対象。時期に合わせた離乳食の試食や、離乳食の進め方の講話と個別相談を実施。

○乳幼児健診相談での栄養指導(集団指導と個別相談)

3.4ヶ月、6.7ヶ月、9.10ヶ月健診の各期で、離乳食の見本展示しながら集団指導と、個別相談。

○福祉と健康のつどい

佐久穂町食育推進計画の重点目標である「糖分の摂りすぎに気をつけよう」を広めるため、糖分当てクイズを実施。その他、食育ポスター等の展示。

○町内保育園、小中学校、農協、保健所、関係医療機関が集まり、健康問題連絡会を年3回実施。子どもの健康問題から食生活等の情報交換の場となっている。

<来年度の取組予定>

○今年度実施した取り組みを継続。

その他、佐久穂町食育推進計画(第3次)評価の年の為、保育園や小学校で食生活についてのアンケートを実施予定。

【長野県市町村教育委員会連絡協議会(飯山市教育委員会)】

<今年度の取組状況>

【保育園】年令ごとに「おうちで食育」と評したお便りを作成し、年度初めに配布する(家庭用)年令ごとの年間における食育計画を策定する(保育園用)

年令に応じた食事に関わる教室を年2回実施する

【小中学校】各校で栄養士・栄養教諭が児童生徒を対象に年1～2回食育指導を実施する

児童生徒が配膳をおこない、食べれる量・基準量を知る

【未就学】マタニティセミナー、乳幼児健診、離乳食教室等を通じて、子どもが親への望ましい食生活定着に向けた指導及び支援

ヤング健診結果説明時における健康づくりのための、食に関する情報提供と栄養指導の実施

<来年度の取組予定>

上記内容を引き続き行う予定

<世界一の健康長寿を目指す食育>

県民の目指す姿

- 肥満(BMI25以上)とやせ(BMI18.5未満)の人が減少し、適正体重を維持する人が増加します。
- 低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者(概ね645歳以上)が減少します。
- メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)が強く疑われる人・予備軍の割合が減少します。
- 成人の糖尿病が強く疑われる人・予備軍の割合が減少します。
- 成人の高血圧者・正常高値血圧の人の割合が減少します。
- 何でも噛んで食べられる人が増加します。

【長野県歯科医師会】

<今年度の取組状況>

- 高齢に達しても、いつまでも自分の歯で噛むことができ、健康的な食生活を送ることにより病気になるにくい身体を手に入れQOLの向上に寄与する。
- 80歳になっても自分の歯が20本以上ある人を増やす。8020運動の推進。
- 『地域歯科口腔保健推進関係者研修事業』を実施した。これは地域における歯科口腔保健推進に関する取組の活性化及び強化を図るとともに、県民自らが歯や口腔に興味関心を持ち、自身やその周囲の人々の歯と口腔の健康づくりに取り組む機運を醸成するため、地域において歯と口腔の健康づくりに関わり、先導的な役割を果たす者を対象とした研修プログラムを提供し、「お口の健康推進員」として認定するものがある。全身の健康とお口の健康との関係、歯周病予防、オーラルフレイル対策、定期的な歯科健診受診の必要性などについて、県歯科医師会による講義、県歯科衛生会の協力による実技指導を中心とした研修会である。

<来年度の取組予定>

- 同上

【長野県栄養士会】

<今年度の取組状況>

○「栄養の日」キャンペーンの実施

健康長寿を支えてきた長野県の食文化の良さを大切にしながら、健康長寿の延伸をねらいとして8月4日の「栄養の日」を中心にキャンペーンを実施した。

実施期間：令和5年7月～12月 県下7地区(大型スーパー等の商業施設)

対象：一般県民

内容：・1日に摂取したい野菜の量350gの展示

・ライフステージ別の食生活の注意点、適塩、フレイル予防等のパネル展示

・地域でとれる野菜、季節の野菜を用いた料理レシピの紹介

・栄養相談

○フレイル予防事業(県下4地区)の開催(令和5年12月末現在)

当会で作成した「食べるから始めよう！フレイル予防 お手軽レシピ集」を活用して講座や普及啓発を実施した。

○糖尿病公開講座(県下3地区)の開催(令和5年12月末現在)

対象者：糖尿病患者及び家族、一般県民

内容：医師、栄養士、健康運動指導士等による講話や相談等

○外来栄養食事指導(栄養ケア・ステーション事業)

クリニックからの要望に応じて、外来栄養食事指導を実施した。(糖尿病、肥満など)

<来年度の取組予定>

○「栄養の日」キャンペーン、フレイル予防事業、糖尿病公開講座、栄養ケア・ステーション事業(外来栄養食事指導)について来年度も引き続き実施する。

【長野県調理師会】

＜今年度の取組状況＞

- 今年度のデータは取っていないが、料理は体力維持と健康を考え個人差はあるが、腹八分目を基本に、肉・魚・野菜の構成と消化の良いものを取り入れ胃もたれしない料理献立を作成

＜来年度の取組予定＞

- コースメニューについては、動植物のタンパク質の取り方、炭水化物の取り入れ方を考える。特に糖質の摂りすぎに注意し献立を作成する

【全日本司厨士協会長野県本部】

＜今年度の取組状況＞

- ゆっくり食べることが大切と伝えている。

＜来年度の取組予定＞

- 会話をしながら食事をするよう進めていく。

【長野県小学校長会】

＜今年度の取組状況＞

- 給食でカルシウムの摂取を考えた献立やかみごたえのある食品を食べることを通して、歯・口の病気を防ぐ食生活について考えた。
- 生活習慣病や生活習慣病を防ぐ食事のポイントについて考える学習を行った。

＜来年度の取組予定＞

- カルシウムの摂取を考えた献立やかみごたえのある食品を食べることを通して、歯・口の病気を防ぐ食生活について考える。
- 生活習慣病や生活習慣病を防ぐ食事のポイントについて考える学習を行う。
- 偏食の害について知り、好き嫌いせずに何でも食べることの大切さについて考える。

【長野県中学校長会】

＜今年度の取組状況＞

- 家庭科の授業で、「80歳で自分の歯を20本残そう！」をテーマに、どのような生活を送ったらよいかディスカッションを行った。しっかり噛むことの大切さ、虫歯にならないためにはどうしたら良いか、ICTを活用して調べ学習を行った。
- 食べたらずみ習慣、一生使う歯を大切にしていこうという目標をもち、生徒会保健委員会による「歯の衛生旬間」を実施した。

＜来年度の取組予定＞

- 基本的には、今年度の取組を継続して行う予定。

【長野県高等学校長会】

＜今年度の取組状況＞

○主な取り組み

- ・食物栄養科(食物調理を専門とする学科)の教育内容としての学び
「家庭総合」「栄養Ⅰ・Ⅱ」(年代別)「調理」「食品」「課題研究」「食文化」(行事食、郷土料理)の中から学ぶ
- ・各種料理コンクールへの応募
- ・全国高等学校家庭科食物調理検定の合格
- ・「信州上田発酵の女学校」への参加(3年)

地域の発酵食品である、酒(日本酒、ワイン、ビール)、味噌、麴を学ぶ
・地域の料理人、上級学校講師による実演講習
味噌作り、和菓子、魚の身おろし、西洋料理

<来年度の取組予定>

○現在連携している地域の団体等との取り組みを継続する

【長野県保育連盟】

<今年度の取組状況>

○1、保育園で行う毎月の身体測定結果をもとに、体重増加が気になるお子さんは町の保健師とも共有し、家庭へのアプローチへ繋げている。

○2、歯科保健指導を行い、歯科衛生士から「歯」の話を聞いたり、歯磨きの仕方の指導、プラーク検査などし、自分の口の中に興味を持ち、歯を大切にしようという意識を持つ。

<来年度の取組予定>

○2、歯科保健指導を親子歯科保健指導とし、保護者も共々に歯を大切に食べ物をしっかり噛んで自分の健康を維持しようという意識を高める。

○1、令和6年度も引き続き行う。

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】

<今年度の取組状況>

○保護者へ食育便り(給食献立)などを通して食事のバランスなどにも触れ家族で健康長寿を目指してもらおう

○歯科口腔保健に関して食事の歯磨きフッ素(幼稚園・こども園での実施)を各市町村で徹底実施する

<来年度の取組予定>

○来年度も引き続き子どもの食育を通して、家族の食事の重要性を伝え、生活習慣病予防に心がける

【栄養教諭・学校栄養職員部会】

<今年度の取組状況>

1 学校給食を活用した取組

(1)成長期である児童生徒が給食を食べることをとおして自分に必要な栄養量・食事量を理解するための適正な給食管理や、新メニュー等の情報交換・調理実習を各地区で行った。

(2)野菜を多く使用し、適塩(減塩)給食を提供した。

(3)児童生徒が歯や口腔の健康づくりに関する正しい知識を習得するために、噛み応えのある食材を取り入れた「かみかみ献立」等を実施した。

(4)試食会や食育だよりをとおして、家庭や地域へ給食で取組んでいる適塩(減塩)や口腔保健について情報発信を行った。

2 健康教育(生活習慣病予防、歯科口腔保健等)の実施。

<来年度の取組予定>

○栄養バランスのよい給食の提供に努め、野菜を多く使用した給食を活用し指導を実施する。

○適塩(減塩)給食に努め、家庭・地域へも情報提供を積極的に行う。

○食に関する指導の全体計画に沿って組織的に実施する。

【長野県学校給食会】

＜今年度の取組状況＞

○長野県が提唱する「ゆるしお」に呼応し、令和 4 年度からそれまでの小麦粉100gに対し1.8g添加していた塩を1.6gにした減塩パンを提供している。

＜来年度の取組予定＞

○引き続き継続した取組を予定している。

【長野県生活協同組合連合会】

＜今年度の取組状況＞

○「健康チャレンジ」については①に記載しました。

＜来年度の取組予定＞

○信州まるごと健康チャレンジを継続します。

【長野県食生活改善推進協議会】

＜今年度の取組状況＞

○働き盛り世代への講習会

今の働き盛り世代は肥満、メタボリックシンドロームの予備軍、また糖尿病が増加する傾向にあり、それに対して、野菜たっぷり、塩分控えめの食事について、献立の工夫や、生活習慣習慣についても伝えている。

○シニアカフェ事業

高齢者は低栄養になりがちなので、たんぱく質をしっかりとったバランスの良い食事の普及とともに、皆と一緒に食べる(共食)、外に出る、また高級などの大切さを話し合いながら実施している。

＜来年度の取組予定＞

○今年度と同様の取組を実施予定

【長野県農村生活マイスター協会】

＜今年度の取組状況＞

食の循環と地域の食を意識した食育と同

＜来年度の取組予定＞

食の循環と地域の食を意識した食育と同

【長野県市長会(安曇野市)】

＜今年度の取組状況＞

○特定保健指導

○生活習慣病の発症及び重症化予防の保健指導

○成人、高齢者の歯科検診及び歯科指導

＜来年度の取組予定＞

○同様の取組

【長野県町村会(佐久穂町)】

＜今年度の取組状況＞

○特定健診、保健指導等の推進

・特定保健指導者と合せて、脂質・糖・尿酸等保健指導基準値以前の者に対して、早朝採決・保健指導をし重症化予防に努めている。

・糖尿病性腎症重症化予防の保健指導の実施。

- ・集団健康診査で、食生活改善推進協議会考案の糖分控えめおやつレシピを配布。
- ・広報で生活習慣病に関わる食生活についての啓発記事の掲載

○高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業

- ・地区公民館 47 会場で、フレイル・転倒・認知症予防等の指導を実施。

○介護予防事業

- ・こつこつ元気教室(65歳以上を対象にフレイル予防教室を年3回実施。)

○歯科保健事業については、妊婦歯科健診補助、成人については集団健康診査に歯科健診をセットし歯科口腔衛生向上につなげている。

<来年度の取組予定>

- 上記事業の継続

【長野県市町村教育委員会連絡協議会(飯山市教育委員会)】

<今年度の取組状況>

【保育園】年 2 回発育調査を実施(データ取り) 園による発育測定は毎月実施
肥満傾向の園児、保護者へ保育職員より肥満抑制のアプローチを行う
給食での減塩に努める

【小中学校】養護教諭による該当児童への肥満指導を行う

給食での減塩に努める
よく噛むメニューを取り入れる

【一般】市の健診を実施し、その結果から対象者には特定保健指導を行う

一体的実施事業において、ポピュレーションアプローチにてフレイル予防(低栄養予防も含む)の啓発を行う

<来年度の取組予定>

【一般】特定保健指導の実施

一体的実施事業では、ポピュレーションアプローチに加えて、ハイリスクアプローチにおいても低栄養リスクのある方へ予防や改善を働きかけていく予定

その他、上記内容を引き続き行う予定

<食の循環と地域の食を意識した食育>

県民の目指す姿

- 地域の農産物や食文化に関心を持ち、県産農畜産物の利用などによる郷土への理解を深めます。
- 食に関する感謝の気持ちを持ちます。
- 地域で共食したいと思う人が、様々な人と共食する機会を持ちます。
- 社会課題や環境問題を自分事として捉え、エシカル消費の趣旨や意義について理解を深めます。
- 日ごろから災害発生を意識し、自分の食事は自分で整えられることを基本に知識と技術を学びます。

【長野県歯科医師会】

<今年度の取組状況>

- 具体的には、実施していない

<来年度の取組予定>

- 同上

【長野県栄養士会】

<今年度の取組状況>

- 講習会等での地産地消の取組

高校生への出前講座、栄養の日キャンペーンなどにおいて長野県産食材を意識して使用するなど配慮している。

- 災害時緊急対応研修会、JDA-DAT(日本栄養士会災害支援チーム)長野 リーダー・スタッフ研修会の開催

大規模な地震、台風等の自然災害が発生した地域において、医療・福祉・行政栄養部門等と協力して緊急栄養補給等に関する支援を行うために必要な知識と実践力を習得するための研修会を開催した。

また、災害が起こった際にできる範囲で自分の食事が整えられるよう平時から災害時に備えた調理法(パッキング等)を学んだ。来年度も県と連携し、多くの高校で講座を開催したい。

<来年度の取組予定>

- 地産地消の取り組み及び災害時緊急対応研修会等について来年度も引き続き取り組んでいく。

【長野県調理師会】

<今年度の取組状況>

- 地域の食材、特に伝統野菜をメニューに取り入れる
- 無駄を出さない(葉物であれば調理方法を変えて提供する)
- 年齢、男女に関わらず、煮物に味の濃淡を付け昔からの味付け
- 朝食に配慮し手軽に作れるレシピの紹介をする(豆腐料理する)
- 大豆料理、煮物、揚げ物(豆、豆腐料理、おから料理等)

<来年度の取組予定>

- 今年のメニュー開発を再度実施し、その都度改良を加えて実行する

【全日本司厨士協会長野県本部】

<今年度の取組状況>

<来年度の取組予定>

- 地産地消をもとに信州の食材の良さを教えながら栄養のことも伝えていく。

【長野県小学校長会】

＜今年度の取組状況＞

- 新しい年を祝う献立や昔からの郷土の食べ物・歴史を知る献立を通して、郷土の産物や食べ物、学校給食の歴史やねらいについて知ることができるようにした。
- 給食を通してひょうろりんごについて知り、食べることを通して、食べ物大切さについて考えた。

＜来年度の取組予定＞

- 新しい年を祝う献立や昔からの郷土の食べ物・歴史を知る献立を通して、郷土の産物や食べ物、学校給食の歴史やねらいについて知ることができるようにする。
- 給食を通して食品の大切さについて知ったり食べたりすることを通して、食べ物に感謝する気持ちを育てる。

【長野県中学校長会】

＜今年度の取組状況＞

- 1・2学年で調理実習を実施。小学校時代、コロナで調理実習ができなかったため、関心をもって楽しそうに取り組んでいた。
- 給食センターから毎日届けられる「給食だより」に書いてある、地域食材についての紹介文を、昼の放送で全校に紹介している。
- 家庭科の授業で、給食の献立から地産地消の食材を探し出し、食文化の継承のための興味を持てるように取り組んだ。
- 学校給食で、災害に備えた取組として、年に1回救給カレーを食べている。

＜来年度の取組予定＞

- 基本的には、今年度の取組を継続して行う予定。
- 全学年で調理実習を予定している。地域の食文化のメニューを取り入れたいと考えている。

【長野県高等学校長会】

＜今年度の取組状況＞

- 主な取り組み
 - ・食物栄養科(食物調理を専門とする学科)の教育内容としての学び「家庭総合」「栄養Ⅰ・Ⅱ」(年代別)「調理」「食品」「課題研究」「食文化」(行事食、郷土料理)の中から学ぶ
 - ・各種料理コンクールへの応募
 - ・全国高等学校家庭科食物調理検定の合格
 - ・「信州上田発酵の女学校」への参加(3年)
地域の発酵食品である、酒(日本酒、ワイン、ビール)、味噌、麴を学ぶ
 - ・地域の料理人、上級学校講師による実演講習
味噌作り、和菓子、魚の身おろし、西洋料理

＜来年度の取組予定＞

- 現在連携している地域の団体等との取り組みを継続する

【長野県保育連盟】

＜今年度の取組状況＞

- 保育園の実情に合わせた野菜を栽培し、生長の過程楽しんだり収穫時期の採りたての野菜のおいしさを味わう。
- 地元で生息する山菜採りを経験し、クッキングし味を知る。
- 園で収穫した作物を調理し、保護者や地域の方と交流する収穫祭を行う。
- 地産地消の取り組みウィークを設定し、給食のメニューにふんだんに取り入れ、子どもたちに地元の名産品(野菜や果物)を知らせる。

<来年度の取組予定>

○来年度も引き続き行い。一層の充実を図る。

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】

<今年度の取組状況>

○「子どもには感謝の心や自立性をもってほしい」

親子で園での畑作業(家庭菜園)に参加し労働の大切さ収穫の喜び、共同作業の学び、行事等自分たちで育てた野菜をみんなで食べて、自然の恵み、感謝を知る

<来年度の取組予定>

○大きな災害(能登地方地震)の教訓から災害マニュアルの整備を早急に行い、帰宅困難者や個別的な対応に応じられるよう(食料品の備蓄など)取り組む

【栄養教諭・学校栄養職員部会】

<今年度の取組状況>

1 県産農産物、地場産物、郷土食の活用

(1)給食を教科等と連携して食に関する指導を行うことで、地域の食文化を継承し、郷土への理解を深めるよう努めた。

(2)地域の農業への理解を深め感謝の心を育てるために、生産者と交流する機会を設けた。

(3)地場産物の積極的な活用のために、関係機関(市町村の農政課、地域の生産者団体等)と連携を図った。

2 地域の食育ボランティア(食改、農村マイスター等)と郷土食・行事食の伝承するため連携した。

3 各給食施設で非常食の備蓄をすすめ、防災給食等を実施し、防災教育の推進を図った。

<来年度の取組予定>

○給食に地場産物や郷土食を積極的に取入れ、地産地消を推進する。

○有機農産物の活用について、関係機関と課題を共有し検討する。

○地域の食育ボランティア(食改、農村マイスター等)と連携して郷土食・行事食の伝承活動を行う。

○各給食施設で非常食の備蓄をすすめ、防災給食等を実施し、防災教育を推進する。

【長野県学校給食会】

<今年度の取組状況>

○より安全安心な食材の提供及び地産地消の推進のため、パン用小麦粉の配合を外国産麦主体から県産麦50%北海道産麦50%とし国産100%での供給をしている。

○長野県産物活用促進事業として、長野県産を100%使用した冷凍液卵をはじめ、ワカサギ、レンコン、マコモダケ、冷凍ブロッコリーなど県産の食材の供給に努めた。また、「(「豊丘村たけの子プロジェクト」、地域活性化支援グループ西山「淡竹会」など)地域振興事業に対して協力した。さらに、農水省 LFP 事業の県立学校への有機農産物提供に協力した他、県産小麦 100%のパンを一部学校に提供した。

<来年度の取組予定>

○引き続き継続した取組を予定している。

【長野県生活協同組合連合会】

<今年度の取組状況>

○「健康チャレンジ」については①に記載しました。

○県消団連の消費者大会を後援し、日本と世界の食料問題を考える機会として、講演「そのとき、日本は何人養える？」(講師:篠原信さん)を実施しました。

＜来年度の取組予定＞

○信州まるごと健康チャレンジを継続します。

【長野県消費者の会連絡会】

＜今年度の取組状況＞

○なし

＜来年度の取組予定＞

○地区消費者の会の学習会等でエシカル消費に関する出前講座を実施する。

【長野県農業会議】

＜今年度の取組状況＞

○【農業委員会の活動事例 全国農業新聞、県版他】

①千曲市

同市女性農業委員が会長を務める「かけはしの会」が、昨年9月に農林水産省が主催した第7回食育活動表彰の「食育推進ボランティアの部」に県内初の入賞したことを紹介した。また、同会が行う様々な伝承活動の概要も掲載した。

②その他

県内各地域で開催された取組(下諏訪町「園児が稲刈り」・北アルプス農業農村支援センター「味噌づくり講座」・売木村「学生が棚田再生に参加」)を県版等掲載などにより広く紹介した。

＜来年度の取組予定＞

○県内の農業委員・農地利用最適化推進委員等の関係者が参画する各種グループで様々な食育活動が予定されているため、農業委員会・地区農業委員会協議会等の協力を得ながら、その内容を全国農業新聞・ながの農業会議だより等の広報紙に掲載し、広く県民に紹介する予定。

【長野県農業協同組合中央会】

＜今年度の取組状況＞

○主な取組

・各JAで食農教育活動として地元の小学校や、学校で、JA 営農部と連携し、稲作や大豆栽培から収穫した農産物の加工や、郷土食の伝承までを伝える活動に継続で取り組んだ。

・体験型農園活動や地産地消料理教室を通じ、自給率向上、安全安心な食について学習した。

・小学校へ(田植え、稲刈り、脱穀)の指導

・地元小学校と野菜の栽培学習を行った。収穫した大豆を使い「みそ作り」を行う予定。

・コープながのの組合員と展開する「ふれあい農園」を5月から播種、苗の定植を行い、管理、収穫までを行った。11月には野沢菜を収穫して持ち帰るまで行った。(JA あづみ)

・飯田女子高校で、郷土食特別授業を昨年度初めて行い、新たな繋がりができた。(JA みなみ信州)

・若い世代へ大北産米粉を使ったおやつを紹介した(米粉のチュロス)

・フードライブ活動をおこない「子ども食堂」へ食材提供等の運営協力を行った。

＜来年度の取組予定＞

○主な取組

・各JAで食料自給率・安全安心な食の学習会を1回以上開催する

・各JAで、地域住民を対象にした農業体験や地元農産物を使った料理教室等を実施する

・各JA女性組織で郷土料理・伝統食の継承に取り組む

・各JA女性組織で地域住民や学校と連携し、食農教育に取り組む

【長野県農村文化協会】

<今年度の取組状況>

○コロナ 5 類感染症移行にともない食育箱膳体験の講演依頼が増えている。公民館・学校などでは食育（食べごと）の4つの意味をしっかりと伝えている。県元気づくり支援金で作らせていただいたパンフを増刷して活用している。「栄養・健康・安全」「共食・きずな・作法」「食への感謝・いのち・いのり」「地産地消・ふるさとの無事・食文化の継承」4つの相互関連の切り口は好評である。

○郷土食・伝統食講座を開催している千曲市「かけはしの会」が農林水産省主催の食育活動表彰において栄えある【消費安全局長賞】を受賞しました。「箱膳体験」「学校料理伝承班」「食の文化祭」「かけはしチャンネル食育動画配信」など行政と「かけはしの会」の連携が高い評価を受けました。

○「戦中・戦後の食」の伝承講座が人気あり「スベリヒユのお浸し」「大根めし」など災害時の食事を自分で整えられる知識と技術の学びになった。現代の食生活の見直すきっかけになっている。

<来年度の取組予定>

○本計画の目標である「地域の農畜産物や食文化に関心を持ち農畜産物の利用などによる郷土への理解を深める」「食に関する感謝の気持ちを持つ」は当会の活動目標と重なっている。具体的には、ツールとして「箱膳の活用」「農産物(りんご・西山大豆・カボチャ・きゅうりの命のありがた学習は好評)の活用」「わら細工の活用」など現物を利用して琴線に触れる伝承方法を継続する。

【農林水産省関東農政局】

<今年度の取組状況>

○環境に優しく持続可能な生産から消費を実現する「みどりの食料システム戦略」の情報提供に関連し、小中学校を対象にした出前授業を行った。

○食育月間に関東農政局で作成したポスターをホテルプリランテ武蔵野、さいたま新都心合同庁舎及び関東農政局 WEB サイトにて食育パネル展を実施した。また都県・政令指定都市などにポスターを配布・掲示し、普及啓発を行った。

○関東農政局 WEB サイト内の「おうち de 食育」を更新し、食育に関するコンテンツ「学ぶ・遊ぶ」「育てる」「食べる」の4つに分け情報を発信した。

○関東農政局 WEB サイト内で農林漁業体験を動画で紹介する「関東食育 DOUGA」を更新した。

○さいたま新都心大型映像装置及び関東農政局 WEB サイト内にて15秒で食育を紹介する「食育15秒動画」を更新した。

○栄養バランスに優れた食事や地場産物などを活かしたスポーツ選手や施設の食事を、新たにInstagramと局HPで情報発信した。

○「環境と調和のとれた持続可能な食糧生産とその消費にも配慮した食育の推進」について食育セミナーを2月18日(日)に開催予定。

○関東食育ネットワーク会員に対しメールマガジンの配信をした。(毎月19日)

<来年度の取組予定>

○同上

【長野県食生活改善推進協議会】

<今年度の取組状況>

○郷土・伝統料理講習会

今年度から実施。今まで受け継がれてきた郷土料理とそのいわれについて自分たちも改めて学びながら伝えている。

○災害時の料理講習

災害時の食事について、パッキングを実習しながら伝えていく。
○各講習会においては、食材は使い切る、材料の廃棄をなるべく少なくする等の調理の工夫をしている。

<来年度の取組予定>

○今年度同じ内容で実施していく予定だが、県内の郷土料理について一つ一つ学びながら伝えていきたい。

【長野県農村生活マイスター協会】

<今年度の取組状況>

○長野県農村生活マイスター協会は、第4期長野県食と農業農村振興計画の「女性活躍に関するアクションプラン」に基づき、地域での活動を重視し、14支部に分かれて地域の実情にあった食育活動を展開している。

プランの推進の柱の一つである「地域固有の食や文化の共有の発信」に関する事業として、学校と連携した農作業や調理の体験、学校給食への食材提供、地域農産物の活用法研究等の講習会を通じた魅力発信、地産地消、地域の伝統食・伝統行事の講座や講習会等を通じた食育を推進した。

【取り組み事例】

○小学生や中学生を対象にした郷土料理教室(安曇野、北安曇支部)を開催。また外国人向けに地元食材を使ったおせち料理教室(松本支部)を開催し、地域の食文化への関心を持ってもらった。

○小学生やその親子を対象にした地域農産物を使用した料理教室を開催。(松本、安曇野、北安曇支部)

○小学生と一緒に田植えから稲刈り体験のお手伝いを行う。(安曇野支部)

○小学生や親子を対象にしたジャガイモ掘り体験会を開催。(北安曇、長野、下水内支部)

<来年度の取組予定>

○来年度も市町村と連携しながら、小中学生やその親子など一般消費者に向けて、農業体験や料理実習などを行うことで、地域の農畜産物や伝統食文化に理解を深めてもらう活動を、引き続き取り組んでいきたい。

○若者、男性、移住者、外国人や地域おこし協力隊、飲食事業者等と幅広く連携して活動していきたい。

【長野県市長会(安曇野市)】

<今年度の取組状況>

○地産地消の推進(安曇野フルコース、小中学生お弁当の日に地元農産物の提供等)

○地元食材の推進(園庭田んぼ、プチ田んぼ)

○地元食材活用講座(干し柿づくり)

○季節の料理教室

○食品ロス削減の啓発(HP、広報誌、コースター配布)

○生ごみ処理機等の購入費補助

<来年度の取組予定>

○同様の取組

【長野県町村会(佐久穂町)】

<今年度の取組状況>

○町内保育園、小中学校、農協、保健所、関係医療機関が集まり、健康問題連絡会を年3回実施。農産物生産等に係わる農協と連携し、食農教育の情報を共有している。

○男の料理教室を65歳以上の男性を対象に年3回実施し、調理実習を通して、食への関心と実践の動機づけをしている。

○食生活改善推進協議会

年5回の学習会と調理実習を実施。その他、郷土料理を地域の料理教室で広めた。

○食育推進委員会

親子3世代で作る料理レシピとポスターを作成。福祉と健康のつどい等で掲載。

○年1回の「福祉と健康のつどい」で、食生活改善推進員や食育推進委員会からの食育普及を実施。

<来年度の取組予定>

○今年度実施した取り組みを継続。

その他、食生活改善推進協議会では災害発生時を意識した調理実習を計画中

【長野県市町村教育委員会連絡協議会(飯山市教育委員会)】

<今年度の取組状況>

【保育園】地域農家より地元野菜を納入し提供する

米作りへの参加・見学、地域の方の協力を得ながら畑づくり

郷土食の導入(にらせんべい、野沢菜漬けなど)

【小中学校】米づくり学習として、実際に体験・栽培し、給食で提供する

地域のブランド食材の使用(常盤ごぼう、坂井芋、みゆきポークなど)

【その他】こども食堂の運営を支援し、共食の場の提供に協力する

<来年度の取組予定>

【小中学校】有機米に関わる研究、給食等に導入できる新たな地域食材の発掘へ向けて研究

その他、上記内容を引き続き行う予定

<信州の食を育む環境づくり>

県民の目指す姿

- 県民が食育に関心を持っています。
- 食育ボランティアの活動に参加する県民が増加します。
- 生産から消費に至るまでの食に関する様々な実践活動・体験等の場に参加する県民が増えます。
- こどもから成人・高齢野に至るまで、生涯にわたって、各ライフステージに応じた食育に取り組めます。
- 食品に関する信頼できる情報に基づき、適切な判断をし、健全な食生活を行うことのできる知識を持ちます。

【長野県歯科医師会】

<今年度の取組状況>

- 食育に関心を持つことにより、いつまでもよく噛んで食べることの重要性に関心もつ県民を増やす。
- よく噛んで食べる機能を維持することで、健康寿命の延伸(フレイル予防、オーラルフレイル予防)につなげられるような食べ方の支援、誤嚥性肺炎の予防や高齢の低栄養の予防を考慮した食生活支援を行う。

<来年度の取組予定>

- 同上

【長野県栄養士会】

<今年度の取組状況>

- 講座やイベントなど住民への普及啓発により食に関する関心を高める。
- 当会の事業については、県民が健康づくりや食育に関心を持ち、健全な食生活を営むことができるよう実施しているので、今後も事業の中で他の他団体とも連携しながら食育推進に取り組んでいきたい。

<来年度の取組予定>

- 上記と同様

【長野県調理師会】

<今年度の取組状況>

- すんき漬と信州サーモン
信州サーモンそぎ身を塩酢に漬け、すんき漬けと和える
試食会は行ったが、料理コンクールでの提示はできなかった

<来年度の取組予定>

- 発酵食品
特に味噌を使ったメニュー開発
例：味噌あじの筑前煮、味噌おでん等

【食品衛生協会】

<今年度の取組状況>

- 食品関連事業者による HACCP に沿った衛生管理の実施方法の周知など、食品の衛生管理に寄与し、安心・安全な食品を消費者に届ける為の取組。
 - ・食品衛生指導員活動(衛生に関する知識や技術等をもつ方がたを指導員として委属し、法令遵守、食品衛生思想の普及啓発、健康被害者救済等に係る事項について実践活動を行うことにより、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止するための取組)
 - ・食品衛生責任者養成講習会及び食品衛生実務講習会の実施

- ・HACCPに沿った衛生管理など、食の安全管理を行っていることを消費者にPRするための「食の安心・安全・五つ星事業」を実施
- ・食品衛生管理のための「自主管理手帳」の作成
- ・衛生管理のための検査(検便・食品検査・水質検査)
- ・手洗いマイスター認定講習会及び手洗い講習会の実施
- ・その他、各種食品衛生講習会等の実施

< 来年度の取組予定 >

- 今年度と同様

【長野県小学校長会】

< 今年度の取組状況 >

- 食育に関する計画を見返し、来年度に向けた課題を検討している。

< 来年度の取組予定 >

- 食育に関する計画を見返し、次年度に向けた課題を検討する。
- 食育ボランティアとの連携についても考えていきたい。

【長野県中学校長会】

< 今年度の取組状況 >

- PTA 教養部と保護者の希望者が、給食センターを訪問し、給食センターの施設や調理風景を見学、試食会を行った。
- 家庭科の授業で、給食の献立から地産地消の食材を探し出し、食文化の継承のための興味を持てるように取り組んだ。

< 来年度の取組予定 >

- 基本的には、今年度の取組を継続して行う予定。

【長野県高等学校長会】

< 今年度の取組状況 >

○主な取り組み

- ・食物栄養科(食物調理を専門とする学科)の教育内容としての学び
「家庭総合」「栄養Ⅰ・Ⅱ」(年代別)「調理」「食品」「課題研究」「食文化」(行事食、郷土料理)の中から学ぶ
「課題研究」の成果発表の様子をケーブルテレビで放送
- ・各種料理コンクールへの応募
- ・全国高等学校家庭科食物調理検定の合格
- ・みんなの塩田食堂(子ども食堂)調理ボランティア(3年有志参加)

< 来年度の取組予定 >

- 生徒が学び身に付けたことを自らの食生活に活かすとともに、将来、食の専門家として社会に貢献できるよう、継続した取り組みをおこなう

【長野県保育連盟】

< 今年度の取組状況 >

- JAの協力で、リンゴとキノコの贈呈式を行っていただき、子どもたちが特産物を身近に感じる機会をつくる。
- 北信濃食文化の会(ボランティア)の方の申し出による、お盆の行事食を知る機会を設ける。

< 来年度の取組予定 >

○リンゴ、キノコの贈呈式は引き続きやってもらえるよう、依頼する。
○北信濃食文化の会では、お膳での食事なども教えてください、お盆さんや年神様に加え、体験させていただけるよう依頼する。

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】

＜今年度の取組状況＞

○感染症(コロナ渦)の中で特に楽しいはずの給食の時間が奪われ、子どもたちの心身の発達が危ぶまれてきたが、しっかりとした医学的な根拠に基づき、楽しい食事環境を考える。(園外、時間差など)

＜来年度の取組予定＞

○食育の大切さを「食育だより」を利用して家族そして地域の皆さんとも交流を深め、地産地消(職の循環)を生かして明るい食文化を築きたい。

電子メディアの急速な発展の中で、子どもの健全な心と体を育むために親世代が食育に気をつけることを啓発していきたい。

・特殊な場合を除き、スマホは食事中に必要ありません

・楽しんで、味わって、会話をして食事を囲みたいのなら、共に食事をする人は「テレビを消して、スマホをオフにしてください」

【栄養教諭・学校栄養職員部会】

＜今年度の取組状況＞

- 1 長野県食育推進計画(第4次)を受け、市町村の食育推進計画の作成に参画した。
- 2 児童生徒が栽培・収穫した農産物を給食に使用し、体験等を全校に知らせた。
- 3 栄養教諭等が学級担任と連携し、児童生徒の農作物の栽培活動に関わり指導した。

＜来年度の取組予定＞

○市町村の食育推進計画及び長野県食育推進計画(第4次)の目標実現に向けた取組

【長野県学校給食会】

＜今年度の取組状況＞

○学校給食に安全で安心できる食材の安定供給。

○主食物資の異物混入防止対策やノロウイルス等の食中毒防止のため、委託加工工場に対する衛生指導。

○長野県産物を活用した学校給食献立レシピ集を刊行し、普及促進に努めた。

＜来年度の取組予定＞

○引き続き継続した取組を予定している。

【長野県生活協同組合連合会】

＜今年度の取組状況＞

○「健康チャレンジ」については①に記載しました。

○コープながのと共催で、相対的にリスクの大きいいわゆる健康食品を知る機会として、「健康食品による健康被害を防ぐために」をテーマに脇晶子さんを講師に食品安全セミナーを実施しました。

＜来年度の取組予定＞

○信州まるごと健康チャレンジを継続します。

【長野県消費者の会連絡会】

＜今年度の取組状況＞

【東信地区消費者の会連絡会】

○「食品添加物の役割とその安全性」と題し、学習会を開催した。東京から講師をお呼びし(講師:(一社)日本食品添加物協会 川岸昇一 氏)食品添加物の基本を学び、食品添加物に関する正しい情報を得ることにより、食に関する安全性をより意識する方向性を会員の多くが確認することができた。また、長野県食生活改善推進協議会上小支部会員と一緒に学習会を開催することにより、同会員の食に対する意識の高さを身近に感じ、刺激を受けることができた。

◎東信地区消費者の会第3回学習会 令和5年12月7日(木)13時30分～15時30分

会場:上田合同庁舎講堂

参加者:東信地区消費者の会連絡会 14名 食生活改善推進協議会 10名 参加者 合計 24名

＜来年度の取組予定＞

【東信地区消費者の会連絡会】

○昨年度は、冷凍食品協会から講師をお呼びして学習会を開催。今年度は、日本食品添加物協会から講師をお呼びしての学習会を開催し、会員から好評だった。食に関する学習会は、会員の関心も高く参加者も多いため、来年度も同様に事務局としては、食に関係した学習会を開催したい。

【長野県農業会議】

＜今年度の取組状況＞

○県内77農業委員会では、約1,500人の農業委員及び農地利用最適化推進委員が中心となって、食料の生産基盤となる農地の確保と有効利用を進める取組を進めている。また、市町村・農業委員会では、令和7年3月末までに、農業者に意向や地域の話合いをもとに、今後10年後の地域農業の目指す姿と農地利用の「目標地図」の作成を進めており、これらの活動を通じて、食料の確保、その生産基盤となる農地の重要性を広く県民に伝えていきたい。

＜来年度の取組予定＞

○策定期限となる令和7年3月までに、地域計画・目標地図の作成がスムーズに進むよう、農業委員会の活動支援を行っていく。

【長野県農業協同組合中央会】

＜今年度の取組状況＞

○JA職員は、「食」の生産から消費まで横断的に学ぶ「食の検定(食農)3級」試験に取り組み、学校への出前授業や農業体験学習会時に「食育」についても伝えている。

＜来年度の取組予定＞

○「食の検定(食農)3級」オンライン試験に取り組み

【長野県食生活改善推進協議会】

＜今年度の取組状況＞

○県下各地で区・公民館・学校などから要請があれば、それぞれに応じたメニュー等で活動している。
○調理実習時の衛生面や食品の表示等は保健所の専門職から学んだことを、受講者に伝えている。

＜来年度の取組予定＞

○調理実習を通して自分たちも楽しんで活動しながら会員増につなげていきたい。

【長野県農村生活マイスター協会】

＜今年度の取組状況＞
食の循環と地域の食を意識した食育と同
＜来年度の取組予定＞
食の循環と地域の食を意識した食育と同

【長野県市長会(安曇野市)】

＜今年度の取組状況＞
○食育月間、食育の日の啓発(HP、のぼり旗設置)
○農業体験講座

＜来年度の取組予定＞
○同様の取組

【長野県町村会(佐久穂町)】

＜今年度の取組状況＞
○第3次佐久穂町食育推進計画にもとづいた活動の推進。
目標 1)朝食を食べよう
目標 2)主食、主菜、副菜をそろえよう
目標 3)適塩を心がけよう(今よりちょっと薄味に慣れよう)
目標 4)糖分の取りすぎに気を付けよう
目標 5)食に関する体験を増やそう

○食育の日の啓発無線放送。毎月19日に食育の日の無線放送を実施。

○食育ボランティアの活動充実、育成。
・食生活改善推進協議会の活動内容について、町内医療保健福祉機関の集まる健康管理合同会議で、活動の成果報告をした。会員育成につなげた。

＜来年度の取組予定＞
○上記事業の継続

【長野県市町村教育委員会連絡協議会(飯山市教育委員会)】

＜今年度の取組状況＞
【保育園】畑づくりで得た野菜を給食で食べ、作って口に入るまでの過程を体感する
保護者へのお便りを通じて、食に関わる活動を知らせる、また献立紹介を行い食に関心を持ってもらう
【小中学校】米づくりを通じて、食と農を学ぶ
保護者へのお便りを通じて朝食、共食の大切さを発信
【一般】食生活改善推進協議会の育成と活動の支援及び連携
市報・ケーブルテレビを通じた健康づくりや各世代の食生活の重点等について情報発信
各種教室、地域サロン等における食育講座の実施

＜来年度の取組予定＞
上記内容を引き続き行う予定